

令和7年度第1回西予市総合教育会議 会議録

I 開催した日時及び場所

令和7年8月26日（火）午後4時00分から午後4時53分まで
西予市役所 5階 大会議室3

II 出席した構成員

西予市長 管家 一夫

西予市教育委員会

教 育 長 宇都宮 明彦 教育委員（教育長職務代理者）酒井 史朗

教育委員 兵頭 美和 教育委員 藤森 美佳

教育委員 三好 敏博

III 会議に出席した職員

（市長部局）

まちづくり推進課地域づくり活動センター推進室 三好 祐介

（教育委員会事務局）

教 育 部 長 谷川 和久 教育総務課長 宮中 英希

学校教育課長 宇都宮 晋 まなび推進課長 大崎 伸一

教育総務課長補佐 山本 裕樹 教育総務課長補佐 柿原 稔広

教育総務課学校再編係長 兵頭 智 学校教育課長補佐 清家 真二

まなび推進課長補佐 往田 剛

IV 傍聴者

7名

V 協議事項

- （1）中学校校舎の施設整備について
- （2）遠隔地居住生徒への対応について
- （3）学校再編後の校舎の利活用と支援制度について
- （4）中学校再編と地域の教育力について

VI 協議の内容

宮中課長	定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第1回西予市総合教育会議を開会いたします。 初めに管家市長からあいさつをいただきます。
------	--

管家市長	皆様、本日はご多用のところ、令和7年度第1回西予市総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。司会からもありましたとおり、7名の方が傍聴にお越しいただきまして、ありがとうございます。 本市の教育行政・学校運営につきまして、ご尽力いただいておりますこと、この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。 昨日は、県内でもいち早く、大野ヶ原小学校で2学期がスタートし、9月には、各学校で運動会等の大きな行事も開催されることと思います。まだまだ残暑の厳しい日が続くと思いますが、子どもたちが健やかに、学校生活を送ることができ、2学期がスムーズなスタートとなりますよう願っております。 さて、今日の会議は、中学校再編に向けた協議ということで、教育委員会からの求めに応じての招集となっております。現在、県内はもとより全国的に人口減少が進んでおり、当市も予想以上の少子化、コロナ経験以降、少子化が著しく減少しております。将来を担う子どもたちの教育環境を考えますと、市内中学校の再編が必要であると私も感じております。 本日は、活発な意見交換ができる場になりますようよろしくお願い申し上げます。 以上、あいさつといたします。
宮中課長	続きまして、宇都宮教育長があいさつを申し上げます。
宇都宮教育長	教育委員会を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。 今回の会議は、市長のご挨拶にありましたように、教育委員会から召集を求め、市長におかれましては、お忙しい日程を割いての開催、誠にありがとうございます。 今回の会議は、中学校の再編に向けた課題や今後の方向性を共有し、意見交換をさせて頂くことにより、市長部局とのより連携が図られ、再編に向けた政策実現のための合意形成を図るために教育委員会から開催を求めたものであります。

宮中課長	再編計画（素案）の策定の背景と目的でございますが、全国的に少子化が進む中であって、西予市においては、平成 16 年度時点で 1,280 人であった生徒数は、市内出生状況から推計いたしますと、令和 19 年度には 385 人になる見込みでありまして、約 70%の減少となります。 また、多くの学校施設が老朽化しており、安全面や機能面での課題が生じ、早急な対応が必要となっております。 このような状況の中、本市の子どもたちに確かな学力を身に付け、自己肯定感を高め、豊かな心と健やかな体を育むといった「生きる力」を養うためには、望ましい教育環境の実現と教育の質の向上が重要であり、一定の学校規模を確保することが必要だと考えます。 同時に中学校は、生徒の教育の場であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての役割を担っており、防災、子育て、地域交流の場としての機能も併せ持ち、地域の未来を担う重要な施設です。 このため、一定の学校規模を確保する必要性を認識しつつ、学校が持つ多様な機能にも留意し、保護者や地域住民の十分な理解と協力を得る「地域とともにある学校づくり」の視点を欠かすことはできません。 これらのことを踏まえ、教育委員会では、西予市の将来を担う子どもたちにより良い教育環境を提供するとともに、地域との関わり方を重視した中長期的な市内中学校の在り方を考え、西予市中学校再編計画（素案）を策定いたしました。 この後、4 名の教育委員さんから、中学校校舎の施設整備、遠隔地居住生徒への対応、学校再編後の校舎の活用と支援制度、再編と地域の教育力の 4 点について意見交換を行わせていただきます。 どうか忌憚のない意見を交わさせていただき、西予市の教育行政の更なる進展が図られるようお願い申し上げます。 本日は、どうぞよろしくお願いいたします。 それでは、協議事項に移らせていただきます。
-------------	---

管家市長	ここからの進行は、西予市総合教育会議運営要綱第4条第1項により、管家市長にお願いいたします。 本会議を主催する立場から進行を務めさせていただきます。 それでは、協議事項「(1) 中学校校舎の施設整備について」ご意見をお願いします。
兵頭委員	まず、私からは、中学校校舎の施設整備について、市長さんにお伺いしたいと思います。 市内中学校校舎の多くは老朽化が進んでおり、中には築60年以上経過している校舎もあります。生徒の安全を適切に確保するためにも施設の改築が急務であると思います。また今後、再編は避けてとおれないことから、再編時には新校舎でのスタートが望ましいと考えます。順調に進めば、建設年度はR11年度から2カ年になりますが、改築には多額の予算が必要になってきます。費用面の確保について、市長さんのお考えをお聞きしたいと思います。よろしくをお願いいたします。
管家市長	市内で、建築年数が最も経過しているのは宇和中学校になるかと思います。また三瓶中学校においては、宇和中、野村中に次いで古い施設になりますが、施設の老朽化が著しく安全対策を講じる必要があると報告を受けております。どの校舎も耐震改修を講じてはいますが、特に古い宇和中学校では耐力度調査判定により、改築が必要であるとの結果が出たと聞いております。 再編統合時には、子どもたちには、新しい校舎による安心・安全な教育環境の下で新たなスタートを切ってほしいと考えております。 当市は、自主財源が乏しく厳しい財政運営で、財政健全化に向けて研究を進めておりますが、市全体で事業の調整を図るなど、予算の確保には責任をもって努め、校舎の建設を進めて参りたいと思います。
兵頭委員	ありがとうございます。

管家市長	1日の大半を学校施設で過ごす生徒たちが安心して学習することができる環境を整えていただけるようお願いいたします。 次に学校施設は、大規模災害時には地域住民の避難所の役割も担っております。新校舎建設の際には災害への備えとして機能面充実の必要性も重要視しなければならないと思いますが、市長さんはどのようにお考えでしょうか。よろしくお願いいたします。 学校施設は、児童生徒の学習・生活の場であると同時に、災害時には避難所としての役割も担います。平成30年の豪雨災害の際には、兵頭委員さんも避難所生活を経験されたと思いますが、ご指摘のとおり安全面や機能面への取り組みも重要です。東日本大震災の教訓からも避難所としての利用が長期化した経験から、教育活動と避難生活の共存を想定しながら、早期に学校教育活動を再開させるための対策を講ずることが必要と思っております。施設建設にあたっては、避難所として必要な機能面などの配慮やバリアフリー化、夏場の猛暑対策として空調も検討する必要があるかと思えます。 校舎建設にあたっては、教育委員会において、学校関係者や防災担当職員とも連携をいただきまして、避難所としての必要な機能面の配慮、そして、子どもたち、教職員も安心して教育活動が行える施設となるよう、十分な検討をお願いしたいと考えてるところであります。
兵頭委員	ありがとうございます。 災害時、多くの人々が一時期共に生活する場として使用されるため、施設の整備には、十分配慮していただきますようお願いいたします。また建設には大変な時間と労力、経費も必要になるかと思いますが、こどもたちと地域住民の安心安全な環境実現のため、引き続きよろしくお願いいたします。 私からは以上です。ありがとうございました。
管家市長	その他、この件に関しご意見はないでしょうか。

全構成員	特になし。
管家市長	それでは、協議事項「(2) 遠隔地居住生徒への対応について」に移りたいと思います。委員の皆さんからのご意見をお願いしたいと思います。
三好委員	私の方からは、中学校再編によって、再編後の学校から遠く離れた地にお住いの生徒への対応について伺いたと思います。 学校再編によって学校区が市全域に広がると、バスを運行しても目安の1時間を超える地域が増えると思われます。毎日2時間以上を通学に費やすことは、子どもたちにとって、かなりの負担になるのではないかと思います。寮整備には費用も必要になりますが、こどもたちの寮が必要ではないか、市長さんのお考えを伺いたと思います。
管家市長	再編することで、物理的にどうしても距離や時間の問題が生じると私も思います。現に野村中学校では、惣川・大野ヶ原地域を対象に寄宿舎が整備されており、現在5名の生徒が利用している状況であります。再編された結果、距離や時間の問題で、子どもたちの教育環境に大きな差が生じることは避ける必要があると考えます。 全国的にも少子化により、再編の検討が進んでおりますので、他市の状況なども参考に、調査・研究をした上で、必要があると結論が出た際には、整備する必要があると考えます。
三好委員	ありがとうございます。 子ども達のより良い環境整備のために、ご検討よろしくをお願いします。 私自身、寮整備には前向きな考えではありますが、今後の子どもたちの減少推移からすると、中学生のみを対象とするこれまで同様の整備では、整備したにもかかわらず、数年後には対象となる生徒数自体が減少し、空き部屋が発生するなど運営面にも大きな影響が発生する

管家市長	だろうと危惧しております。 仮に整備するにあたっては、運営面も含め、様々な視点から整備の考え方を見直す必要があるのではないかと考えるわけですが、市長さんのお考えを伺いたと思います。 先程のご心配の声もありましたが、施設の整備にあたっては多額の経費も必要ですし、寮母さん1つにしても、知恵を出しながら運営頂いていますが、寄宿舍の運営においても課題は多いと聞きます。運営面を含めた長期的な視点も必要になるかと思ひますし、効果に見合う投資となるよう検討が必要であると思ひます。 その点も十分に踏まえた上で、様々な角度から調査研究を行う必要があると考えております。1つの視点として中学校だけにとらわれることなく、市内にある高校などにも目を向けて、新しい発想や、様々な視点から検討し、子どもたちの負担軽減に取り組んでいく必要があると感じております。
三好委員	ありがとうございます。 再編により統合された遠隔地のこどもたちの負担が少しでも解消され教育環境に差が生じないよう、引き続きご検討をお願いします。 ありがとうございました。
管家市長	その他、この件に関しご意見はないでしょうか。
全構成員	特になし。
管家市長	それでは、協議事項「(3) 学校再編後の校舎の利活用と支援制度について」に移りたいと思ひます。委員の皆さんからのご意見をお願いしたいと思ひます。
藤森委員	私からは、学校再編後の施設の活用や制度についてお伺ひしたいと思ひます。 再編後に生じる空き校舎の利活用については、全国的

管家市長	にも法的・財政的な課題から、活用が進みにくいという現状があります。 西予市内においても、老朽化が進む施設を地域の資源としてどう位置づけるか、また、維持管理費の問題や利用ニーズと校舎の規模の不一致なども生じており、活用することが難しいと考えておりますが、市長さんはこの件につきましてどのようにお考えでしょうか。 小学校が統合して、実際に校舎が空いているところもございいますが、その中で地域づくり活動センターとしての活用や、藤森委員さんの地元である狩江のように、各種団体への貸出しであるとか、社会体育施設として、体育館の活用実績がありますが、廃校となると、施設の大半は、築年数が古いものもありますし、利活用には一定の改修費用が必要である点や施設規模や維持管理費用の面からも、地域や企業から具体的な活用要望が、まだほとんどないような状況であります。 立地条件を見ても交通アクセスの不便さにより、特に地方では活用が難しいと認識をしております。 学校は地域の財産でもありますので、「西予市の学校施設等の跡地利用のための基本方針」に沿って、まず、地元での利活用を考えていただいて、それがなければ、また利活用可能なところに広く求めるといような、方針であります。 これに基づき、まずは各地区でご検討をいただいた上で、活用を考える必要があると思いますが、今後はやはり地元の同意と、活用により、地域の雇用創出を前提とした上での、民間を含めた売却なども視野に活用を検討していきたいと考えます。あくまでも地元の同意というのが前提になる考えです。
藤森委員	ありがとうございます。 市長さんも利活用の難しさを感じておられる一方で、今後は民間との連携などの可能も視野に入れておられるとのことですが、その上で、市としては今後、利活用を推進していくための財政的な支援の考えがございま

管家市長	すか。 当市の財政事情は大変厳しいものがございます。 市の支援、どこまでできるか、そのやり方もあります が、なかなか難しいと思っております。利活用者への助 成も同様でありますけれど、今、地域創生とか、いろん な意味で各省庁における支援制度や施策など、新しいも のが出ております。そういうものに注視しつつ、利用で きるものがあれば利用したいし、活用のお話があれば、 活用することが出来ないか、行政として一緒に考えてい きたいと思っております。 市は、学校施設だけではなく、多くの公共施設を有し ておりまして、学校と同じように老朽化も進んでおりま す。適切に管理していくための「公共施設等総合管理計 画」を作成しております。計画に基づき適切に管理して いくことはもちろんですが、活用に向けた、情報発信、 売り込みも必要であるというふうに思っております。 除却のみを対象にした国の支援も、新たに示されてお りますように、制度も拡充されてきております。学校が 活用されることで、地域への波及効果も期待されるこ ろでありますので、全国的な課題として、難しい面はあ りますけれども、先ほどから申しておりますように、各 方面にアンテナを張りながら、活用に向けた取組を推進 していかなければ、負の財産になってしまいますので、 民間を含め、いろんな活用に興味があるところへの情報 発信に力を入れていきたいと思っております。
藤森委員	ありがとうございます。 今後、再編が進む中で、廃校となる施設が増えていく ことが予想されます。 地域において学校とは、教育機関にとどまらず、地域 の中心としての役割を果たしているという実感もあり ます。 地域づくりの観点からも、幅広い選択肢と柔軟な制度 設計について、地域も行政とともに模索していくことが 必要だと考えています。

管家市長	引き続きご検討と支援をお願い申し上げます。
全構成員	その他、この件に関しご意見はないでしょうか。
管家市長	特になし。
酒井委員	それでは、協議事項「(4) 中学校再編と地域の教育力について」に移りたいと思います。委員の皆さんからのご意見をお願いしたいと思います。
	私は、中学校の再編と地域の教育力について、市長さんのお考えをお伺いしたいと思います。今年度も中学校総合体育大会や学校訪問等で、西予市内の中学生が生き生きとスポーツや学習に取り組む姿を見ることが出来、私たち教育委員も、中学生からたくさんの元気をいただきました。しかし、一方で、私が視察した軟式野球は、合同校同士の一発決勝戦でした。また、城川中では、生徒 11 人のごく少数の授業を参観しました。 市内中学校の生徒数の減少や小規模化の進行を改めて痛感する機会でもありました。大規模、小規模校それぞれによさがあり、一概にどちらが良いとは言えませんが、今後の西予市内の生徒数の減少スピードを鑑みると、適正規模の中学校再編がベターだと思っております。ただ、学校や子どもとその保護者にとってはベターかもしれませんが、地域にとっては必ずしもそうとは言いきれません。現在、地域住民の皆さんは、学校行事や P T A 活動、その他、ボランティア活動等に参加協力しながら、子どもたちの健全育成のため、重要な地域の教育力として貢献していただいております。その一方で、地域住民の皆さん自身も、活動を通して、自らの存在感や充実感を味わうことが出来ており、それがひいては地域の活性化にもつながっていると言っても過言ではありません。まさに学校を核とした地域の活性化だと思っております。学校再編により、「中学校がなくなってしまった。」「地域住民の方々が、子どもが遠く見えなくなってしまった。」「私たちの出番もなくなってしまっ

管家市長	た」と思われてしまっは、地域の教育力だけにとどまらず、地域までも衰退してしまうのではないかと危惧します。 再編後も、これまでと同様、地域の宝である子どもたちのために、愛情たっぷり注いでこられた地域住民の皆さんの気持ちを大切に、そのすばらしい教育力を、引き続き、再編後の中学校でも発揮できるよう、有効な方策を、再編前の今からしっかり考えておく必要があると考えます。 市長さんのお考えをお聞かせください。 学校再編は、子どもたち、保護者の皆さんにとって、よりよい教育環境を提供するための重要な選択であることは認識しています。しかし、ご指摘のとおり、地域コミュニティ、特にこれまで学校を中心に、深く関わっていただきました地域の皆様の思いを考えれば、地域にとって、ベターであるとは一概に言えない側面があることにつきましては、私も重々承知をしております。 これまで学校行事や、PTA活動を通じて、そのことで、地域の連帯感が生まれたり、学校を中心に、地域活性化に大きく貢献されたと感じておりますし、地域の子ども元気な姿や、通学する姿を見えるということで、何かしらの、若いエネルギーをいただいたり、そういう面で、地域の元気になっていたと感じております。 学校の再編によってその元気が失われることがないように、やはり地域の宝である子どもたち。愛情を注いでこられた地域の皆さんの温かいお気持ちというものが、尊重され、今まで以上に、市も力を入れている地域づくり活動センターや、そして、そこに組織されております地域づくり組織と学校との連携というのは、さらに深められるよう、関係性を強化するなど、学校との教育活動などに、継続的にかかわれるような取組を推進することが必要ではないかと思ひます。 宇和では明間と皆田、それ以外の地域の小学校は統合されました。やはり地域と子どもたちの関係というものを繋がないといけないということで、いろんな活動を取
-------------	---

酒井委員	り組まれている先例もありますので、いいところを伸ばしていきたい、そのように思っております。 ありがとうございます。 私も市長さんが言われたように、地域住民の皆さん、それから子どもたちの思いを大切にしたい地域づくり活動センターの今後の取組に期待したいと思います。 そして、今後も地域づくり活動センターと中学校が両輪となって、地域活性化に向けて取り組んでいけるよう願っております。 あと一点、地域学校協働活動推進員制度についてのお願いです。この制度は、学校と地域の連携を強化するだけでなく、地域教育の力で地域を活性化させることができるすばらしい制度だと思っております。 この制度を再編前の全ての中学校に導入することで、それぞれの中学校に配置された推進員の働きにより、再編後の新しい中学校への地域の教育力のスムーズな移行が可能となります。 再編前、それぞれの中学校で活躍されてきた地域の方々が、再編後、新しい中学校でも、「子どもたちのために頑張れる。」「これからも元気で頑張れねば。」と思ってもらうことは、地域の教育力を高めるとともに、教育の力で地域を活性化させることにつながると確信しています。 そのためにも、ぜひ、現在の5つの中学校への早期制度導入を検討していただくようお願いいたします。
管家市長	令和6年に担当課が実施した市内小中学校への、ヒアリングでは、先ほど酒井委員が言われました、多くの学校が地域学校協働活動推進員の配置を希望されておると聞いております。 今年度からモデル校として、4校に3名の推進員を配置しまして、試験運用を開始したところであります。 先程も申し上げましたが、やはり、課題の整理と、改善を図りながら、今の取組から、新たな地域と学校の連携について、ご検討をいただきたいなと思っております。

	す。またセンターの運営委員として地域との関係を、継続されている学校もありまして、地域によって、連携の在り方というのは同じではありません。その地域の特性というものもあると思いますので、そういう様々な方法があると思っております。加えて今後、学校現場においては小中学校の統廃合や部活動の地域移行、地域展開など、大きな転換期を迎えることにもなります。推進員の配置に関しましては、これらの変遷や、試験運用の成果、地域との関係性を踏まえて、今後協議を重ねていく中で、方向性が見えてくるのではないかと思います。 今年のモデル運用の成果を検証しながら次のステップへ進んでいけるのではないかと思います。行政部局も教育委員会と協力しながら、注視していきたいと思えます。
酒井委員	ありがとうございます。 私もその制度の今年度の成果を、大いに楽しみにしております。 再編後も、教育の力が地域の活性化の重要な役割をさせていけるよう、心から願っております。 どうもありがとうございました。
管家市長	他にご意見はないでしょうか。
藤森委員	私からも1つ伺いたいことがございます。 市長さんのおっしゃったとおり、地域と学校との関係性をいかに構築継続していくか、双方にとって非常に重要なことだと感じております。 ただ、関係性が構築されたとしても、中学校の再編により、人口動態には大きな影響が及ぶと懸念されています。特に、学校の存在が、地域における子育て世代の定住、流入を促す重要な要素でありますから、再編により、学校がなくなった地域では、今後、子育て世代が一定数離れていく可能性は否定出来ません。 教育委員会としては、子どもたちが教育に集中できる環境を整えること、これを第1にすべきとは考えており

管家市長	ますが、同時に、今後の地域づくり政策にも大きく影響があると考えております。 ぜひ再編後も、持続可能な地域社会の実現に向けて、御支援いただくとともに、地域の声を生かした施策展開をお願い申し上げます。 人口動態に大きな影響が及ぶ懸念については、考えておかなければならないと私も思います。 学校再編はやはり、地域を変える大きな転換期であると思いますし、市では小学校再編前の平成 23 年から持続可能な地域づくりを推進することを目的とした地域発「せいよ地域づくり」事業に取り組んでまいりました。 合併当初は 27 の小学校区がありましたので、それを単位とした地域づくり組織が発足し、それぞれの地域で活動を推進されております。 令和 5 年度には、公民館が地域づくり活動センターに移行しましたし、27 校区全てにセンターを配置しております。これにより、地域の皆様の多様なニーズに応じたまちづくりや主体的な地域づくり活動が、これまで以上に推進されると思いますし、市内各地で活発な活動が展開されております。 すべての地域が統一の動きではありませんが、リーダー的な地域もありますし、それに追いつこうとされる地域もありますし、何かこれからと思っている地域もあります。このように地域を考える動きというのは活発化していると思っています。 再編いかににかかわらず、持続可能な地域社会への実現に向けた取組みは重要であります。西予市の多様な地域資源を最大限に生かして、それを未来へ引き継ぐ活動を、地域活動センターを中心に、地域の良いところ、また、未来へ向かって地域を残したいという気持ちを育てる、そういう活動を力強く推進してまいりたいと考えております。 再編についても、ただ再編を負の遺産としてではなく、そこにプラスのものを位置付けられるよう、先程の皆さんからの提案などを取り入れながら推進する必要
-------------	--

藤森委員	があると思います。 ありがとうございます。 私自身も、西予市が持つ多様な地域資源に魅力を感じておりますし、それを生かすことが、今後ますます重要になっていると考えています。 重ねてのお願いではありますが、引き続きご支援いただくとともに、地域の声を丁寧に酌み取りながらの施策展開をお願いいたします。以上です。
管家市長	ほかの委員さんから何かございますでしょうか。
宇都宮教育長	今回、教育委員さんのほうから四つの視点について、意見交換をさせていただきました。ありがとうございました。 まずは、施設の整備に向けて、西予市の財政状況は大変厳しい中ではありますが、市長の方から、「市全体で事業の調整を図るなど、予算の確保に努め、校舎の建設を進めて参ります。」とのお言葉を頂き、教育委員会として、大変心強く思うところです。ありがとうございます。 次に地域と学校との関係性の構築ということなんですが、小学校の再編から約10年が経過をいたします。 今回学校訪問において、校長先生からいろいろお話を聞いた中で、地域づくり活動センター、地域づくり組織を拠点として、地域との関係性は継続をしていますよというお話は伺いました。ただし今回の中学校の再編につきましては、藤森委員さんが質問されたように、人口動態に大きな影響が及ぶことが懸念をされますので、本当に、再編後に、地域とどのような関係性を、築いていくかが本当に大きな課題であると考えております。 今後、学校適正配置について、保護者の方や、地域の皆さんの意見を集約し、学校再編を検討する場として、中学校の再編検討委員会の設置をいたしますが、その委員会の中でも、今回の4つの視点以外にも様々な課題が出てまいっていると思っています。市長部局とは、より緊密に連携をとり、課題の解決に向けて、取り組んでまいりま

管家市長	すので、今後も御協力いただきますようお願い申し上げます、私からのまとめとさせていただきます。 教育長から総括的にまとめの発言をいただきましたが、この発言に対し、何かご意見はありませんか。 その他、ご意見はないでしょうか。
全構成員	特になし。
管家市長	特にないようですので、以上を持ちまして総合教育会議を終了させていただきたいと思います。 各教育委員の皆様におかれましては、西予市の子どもたちのためにより良い教育環境の実現に向けて引き続きご尽力をお願いしたいと思いますし、皆さんから本日、4つの視点からご意見がありましたけども、色々と乗り越えていかなければならない問題や新たな課題も出てくると考えられます。 今は素案ですので、これから協議を重ねていただき、その中でより、ベターな素晴らしい方向性というものをご導いていただきたいと思います。 それでは、私の進行を終了し、事務局へお返ししたいと思います。
宮中課長	それでは、長時間にわたりまして、意見交換を行っていただきありがとうございました。 それでは以上で、総合教育会議を閉会とさせていただきます。貴重な時間をいただきありがとうございました。(午後4時53分閉会)